

第 17 回きたひろしま都市型観光推進協議会 議事

- 1 日時 令和 3 年 3 月 30 日（火） 13 時 30 分から 14 時 30 分まで
- 2 場所 北広島市役所 1 階 多目的室 3
- 3 出席状況

NO	氏 名	職 業 等	出欠
1	仲 野 邦 廣	北広島市観光協会 事務局長	出
2	山 崎 悦 子	北広島商工会会員 (行政書士山崎法務事務所)	欠
3	早 田 顕 輔	札幌リージェントゴルフ倶楽部 総支配人	出
4	宮 崎 泰 一	札幌北広島クラッセホテル プロジェクトマネージャー	出
5	仲 川 博 子	ホクレン農業協働組合連合会管理 本部販売推進部くるるの杜 所長	欠
6	三 上 太 一	三井アウトレットパーク札幌北広島 所長	欠
7	三 浦 麻 衣	市民（会社員）	出
8	善 甫 啓 太	市民（会社員）	出
9	(座長) 山 田 基	北広島市経済部観光振興課長	出

オブザーバー

かとう けいこ	株式会社まちづくり観光デザインセンター D EO
吉 田 和 彦	学校法人札幌国際大学 教授 株式会社ANA総合研究所 客員研究員

きたひろしま都市型観光推進協議会事務局

所 属	役 職	氏 名
北広島市経済部観光振興課	主 査	笠 井 衛

傍聴者

人 数
2 人

3 議事録

配付資料の確認、出席委員紹介

1) 開会

○ 事務局

定刻となりましたので第 17 回きたひろしま都市型観光推進協議会を始めさせていただきます。

座長については特にご意見がなければ観光振興課の山田が座長として進行させていただきたいと思いますがよろしいでしょうか。

(委員 異議なし)

○ 座長

今回の会議の趣旨は、これまでも北広島の観光に取り組んでまいりましたが、今年度はコロナの影響によって事業を縮小していたりですとか、地元の観光業の皆様も経済的に不安な状況に陥っている中で、そういった状況や課題などをお伺いして、北広島の現状を再認識したうえで、今後の観光でできることについて、意見交換ができたかと考えておりますのでよろしくをお願いします。

2) 報告 ①令和2年度観光事業実績報告について

○ 座長

それでは、事務局から事業報告をさせていただきます。

(資料に基づいて報告)

○ 座長

令和2年度の事業ということで、年度当初は実施しようとしていたものも、コロナの関係でイベント関係であるとか、あるいはプロモーションみたいな出店してPRするというのも控えなければならない一年間でありました。自転車のイベントもすべて中止しましたし、インバウンド向けに広域連携でPRしようとしても海外に打って出ることもやはりなかなかできなくて、今後のアフターコロナを見据えた基盤整備やプロモーションツールを作るという形で今年度は終わりました。

観光入込客数調査については、上半期のグラフがわかりやすいと思うのですが、メディアとかでも流れているとおり、本市の入込客数も前年と比較しますと大きく落ち込んでおります。また、入込客数だけを見ると、ゴルフ場も減ってはいてもほかの事業者に比べるとそこまではありません。ですが、食事などのゴルフのプレー以外の消費行動に影響が出ていて、売り上げとしては大きく影響が出ているとのことで、数字だけでは語れないところがあると伺っています。

3) 議事 ①観光に対する課題について

○ 座長

続いて観光に対する課題をお話させていただきたいと思います。この1年間の動きですとか、今後はこんなことが課題であるとか、こういったステップを踏んでいくとかお話しいただければと思います。

《宿泊・温泉》

- ・海外からの宿泊がストップし、一番いい時の一割くらいの売上状況が続いている。
- ・地元の方の利用を増やそうと思っても、大々的な集客の宣伝ができないため思い切った行動をとれない。

《ゴルフ》

- ・ゴルフ場の利用者数は概ね回復しているが、プレーだけをして食事も風呂も利用せずに帰る方も増えたため、利用者一人当たりの単価は下がっている。

《航空》

- ・最近は半分くらいの席が埋まっているため、全便運休した月に比べれば回復しているが依然として厳しい状況が続いている。

《地域》

- ・遠方での研修への参加を諦めたり、学校行事が中止になったりと、大人も子どもも閉塞感の中で疲れてきている。
- ・サイクルツーリズムに関する市の事業があるのに、市内の自転車専門店がなくなってきている。
- ・北海道以外の都府県では、オール北海道のように一丸となって観光のPRなどを行っているが、北海道は振興局ごとになっている例が多く、ほかの都府県に比べてインパクトが弱くなってしまっている。
- ・海外からの旅行者が困っていても、声をかけてあげる人が少ない。

4) 意見交換

《委員意見》

- ・自転車やボールパーク、ゴルフの小祝プロなど、北広島市はスポーツもいいコンテンツになる。積極的にスポーツに関するMICEを推進できると良い。
- ・キャンプやグランピングを推進するとともに、キャンプ場まで地場の食品等をケータリングするサービスが発展すると大きな経済効果が得られる。
- ・観光入込客数調査のような人数を基準とするのではなく、DMOのように一人当たり観光消費額を最大化させることが重要。
- ・海外へのPRについては、ほかの都府県に対抗していくためにも、振興局単位ではなくオール北海道で連携していく必要がある。
- ・レンタカーを借りる道外・海外観光客も増えてきてはいるが、まだまだ公共交通機関が主要な交通手段となっている。Ma a Sを活用して旅行する時代がもうすぐそこまできているため、スムーズな移動の観点からも重要性が高いが、地域ごとに異なるシステムを導入すると、この地域では使えたけど、次の旅行先では違うアプリを使う必要があるなどの支障が生じるため、北海道内でしっかりと連携していくべき。
- ・遠くに行くのも難しくなっているので、日常の近くで非日常が味わえて、家族単位で楽しめるような観光ができるといい。

- ・海外からの旅行者が困っているときに、片言の英語でも構わないので声をかけてあげると旅行者の方はとても素晴らしい印象を受け、SNSや口コミなどでその評判が広がっていくので、市民向け英語講座の開催などにより、市民に外国語への意識を持ってもらうことが大切。
- ・観光客からの評価は、その観光に携わった地元の方が大きな影響を与えるため、観光を推進していくためには、人づくりとそれにかかわる人達の組織づくりを両輪で進めていく必要がある。

《オブザーバー意見》

- ・ケータリングの話があったが、鹿追町ではケータリングを専門に行う会社を農家の女性達が立ち上げ、チーズやハム、パン、自分達で作った田舎料理のお弁当といった物を素泊まりのファームインやキャンプ場に届けることで年間 1,000 万円ぐらい売り上げたという事例がある。
- ・観光入込客数という指標があるが、DMOでは観光消費額を最大化させることを一番重要視している。道内、道外又はインバウンドの方がどれくらい来ているかというのはターゲットを絞るのには大切ですが、消費額では参考にならない。日本人が日帰りで使うお金は 7,000 円くらいで、泊りの場合は 2 万数千円のところ、インバウンドの場合は泊りで 10 数万円消費する。日本人の一人当たりの年間観光消費額は 142 万円くらいで、インバウンドが 10 人来てくれれば日本人一人分の年間額を賄える計算になる。そういったデータをしっかりとって方針を決めるのが重要になってくる。
- ・北海道の人が思っている以上に、台湾もマレーシアもベトナムもカンボジアも首都は大都会で、北広島市に期待しているものは、北広島市が有する田畑といったものに代表される「田園風景」を求めて来ている。受け入れる側がそこを間違えないでほしいと思っている。
- ・ロンリープラネットという旅行ガイドブックのライターを北海道に 8 日間呼び出した時に、欧米の方が北海道に来た時には、英語を流暢に話せる人が対応してくれるとは誰も思っていないと言われた。少しでも英語を話せる人がいると嬉しいと感じてくれるとのこと。少しでもヒアリングや話せる人がいると嬉しいと感じてくれる。英会話を練習してほしいと思うが、それよりも、心を込めて、インバウンドの方に嬉しいと思ってもらえるような観光に関わりたいと思う市民づくりの方が大切であると感じる。

○ 座長

そろそろ終わりの時間になりますが、これからも皆様から色々な意見や情報をいただきながら、次のステップとして観光施策を考えていきたいと思えます。

ただ、コロナの関係もあって、これからは今までの観光施策のようにはいかないと思っています。行政ですと見直しは 5 年や 10 年といったスパンで行われますが、もっと切り刻まないと時代に合っていないと思っています。

令和 3 年度も皆様からご意見をいただきながら、まちづくり、人づくりといった部分を含めて引き続きご協力をいただきたいと思います。

最後になりますが、ご質問やご意見等ございますでしょうか。

(質問・意見なし)

○ 座長

本日は、年度末のお忙しい時期にお集まりいただきありがとうございました。